

連携医院のご紹介

今回は女性の健康を支える、身近なかかりつけの医院として診療を続けておられる安芸郡熊野町の「豊田レディースクリニック」の豊田紳敬院長です。



豊田 紳敬 院長

豊田レディースクリニック

〒731-4223
広島県安芸郡熊野町川角4丁目30-1
電話 / 082-855-1913
院長 / 豊田 紳敬
診療科目 / 女性内科・産婦人科



広く明るい待合室

○いつ開業されましたか。

出身は広島で、広島大学医学部を卒業し、呉共済病院等の総合病院を勤務した後、地域に根ざした女性のためのクリニックを開業したいという思いから、縁あり 1998 年この地に開業しました。

○開業されてから今までの事を教えてください。

「すべての女性が明るく、健康に、美しく」をモットーに産婦人科だけでなく、女性内科として女性の健康管理ができるクリニックを目指し、初潮を迎えた思春期の若年層の方から、妊娠・出産、家族計画、婦人科疾患など、更年期、老年期まで、年代ごとに生じる女性の健康面から性に関する悩みまで対応ができるよう、診察しています。地域へ貢献をしたい事から学校医および学校保健管理医そして地元企業の産業医として学校保健及び職場での健康管理を行っています。また、開業以来毎年、熊野高校や近隣の学校への性教育講演会も積極的にしています。開業して20年たちますと、親子3世代で来院されている方もおられ、地域に根付いたクリニックになれたのかなと喜びややりがいを感じています。

○毎日の診療で大切にされている事は何かですか？

患者さんへの細やかな心配りとやさしさ、暖かさをもった診察、対応を心掛けています。患

者さんがリラックスして過ごせるよう、ゆったりと広く明るい待合室を設け、またデリケートな悩みも出してもらえよう環境に配慮しています。名前ではなく番号でお呼びしたり、中待合をなくしプライバシーが保護できるようにもしています。

また、診療受付時間外の電話での相談や状況によっては時間外診療や総合病院などへの受診手配にも対応し、より安心して通って頂けるようにしています。

○県病院はどんなところでですか。

ここからは高速で20分程度で行ける所でもあり、お願いすることも多いです。何でも対応してくださいと感謝しています。特に判断に困る症例では、総合診療科・感染症科の先生に見て頂いて、お世話になっています。



▲豊田レディースクリニック外観
ゆったりとした診療室

【取材後記】
クリニックは清潔感があり配慮が行き届いており、また先生も物腰が柔らかく、穏やかな口調で丁寧にお話をしてください、患者さんも不安なく診療が受けられると感じました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

第127号
2019.9.1
発行



理念：県民の皆様へ愛され信頼される病院をめざします

産婦人科

教えて

Dr. 29

患者さん向け

● 専門診療医による得意治療を紹介いたします。

妊婦さんと薬の話

～妊婦さんは薬を飲めないの？～



成育医療センター長
産婦人科主任部長
三好 博史

◆妊娠中は風邪薬を飲めない？

風邪を引いたけど妊娠中なので薬を飲まなかった方はたくさんおられます。それは胎児への影響が全くない安全とされる薬剤がほとんど無いからです。薬の添付文書では多くの薬剤は有益性投与、つまり投与が胎児へのリスクより母体に有益であると考えられる場合の投与とされています。これは妊婦さんでの臨床研究が倫理上できないからです。



では、妊婦さんは薬を使えないのでしょうか？次の点をご理解いただき、過度に心配する必要はありません。しかし、内服する場合は自己判断せず医療機関にご相談の上ご使用ください。

◆妊娠の時期と薬の影響

まず、多くの妊婦さんが心配されることは、薬を飲んだら赤ちゃんが形態異常になるのではないかと。ヒトの出生時に確認できる形態異常の頻度は3～5%とされています。(産婦人科診療ガイドライン2017産科編より) 薬の影響はこの数字を上回る場合で、そのような薬剤は使用禁忌とされています。

大切なのは、胎児への薬や放射線などの影響は時期により大きく異なる点です。妊娠時期により以下の時期に分けられます。(下表参照)

◆基礎疾患があり薬が必要な場合は？

平成17年10月より国立成育医療センター内に「妊娠と薬情報センター」が設置され、広島県では広島大学病院が窓口になっています。基礎疾患があり、薬の使用が必要な場合には、お近くの産婦人科施設が当院に相談いただければと思います。

県立広島病院からのお知らせ

9月のがんサロン

- 開催日 令和元年 9月18日(水)
- 時間 14:00～15:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- テーマ がんになって感じたことを語る会
- 講師 がんの体験者とそのご家族
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません
- 問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3561
(担当/橋本)

第14回 地域健康フォーラム

健康長寿を目指して 栄養について考えてみませんか?

入場無料
申込不要

日時 10/12(土) 14:00～16:00 会場 中央棟2階 講堂 (定員120名)

- 講演1 『高齢者の糖尿病と健康管理について』
糖尿病・内分泌内科主任部長/望月 久義
- 講演2 『脂質異常と循環器疾患の関係について』
循環器内科部長/卜部 洋司
- 講演3 『がん手術と新しい栄養管理』
～みんなで早く元気になろう～
栄養管理科主任部長(兼) 消化器・乳腺・移植外科部長/眞次 康弘

問合せ先 地域連携室 ☎082-256-3562

妊娠時期と薬の影響

時期	All or none の時期 (妊娠3週末)			器官形成の時期 (妊娠4週～12週)								胎児機能障害のある時期 (妊娠13週～)							
	0	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
成長過程	卵			脳や神経、心臓、胃腸、手足などが形成								性器、口蓋などが発達							
薬の影響	影響殆どなし			もっとも影響								薬によっては影響							
詳細説明	この時期は月経の遅れなどで妊娠に気づく時期です。この時期はまだ細胞分裂の時期であり、形態異常として残らないとされています。妊娠が順調に経過していれば問題ないと考えられます。			産婦人科で妊娠が判明し妊婦健診が始まる時期です。この時期に胎児の各臓器が形成されます。薬剤によってはこの時期の投与により形態異常を残すことがあり慎重な投与が必要です。								胎児が成長し臓器も成熟してくる時期です。この時期には形態異常を起こすことはありませんが、薬によっては母体には薬(有益)でも胎児には悪影響(胎児毒性)を起こす薬剤が知られています。							

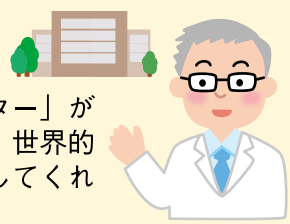
◆妊婦さんの薬物療法について

日常の診療において妊婦さんに処方する機会のある薬剤について、一般的なことを紹介します。

抗 菌 薬	比較的安全、先天異常発生リスクが大きく上昇しないとされている薬剤 ペニシリン系、セフェム系、マクロライド系、ニューキノロン系 避けるべき、先天異常が報告されている薬剤 アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール系
解 熱 鎮 痛 剤	比較的安全、先天異常発生リスクが大きく上昇しないとされている薬剤 アセトアミノフェン 注意して使用すべき(妊娠後期の使用で胎児動脈管の閉鎖の可能性がある) NSAIDs
胃 薬	比較的安全、先天異常発生リスクが大きく上昇しないとされている薬剤 メトクロプラミド、スクラルファート、水酸化アルミニウム配合剤、 H2 受容体拮抗薬、プロトンポンプ阻害薬
抗アレルギー薬	比較的安全、先天異常発生リスクが大きく上昇しないとされている薬剤 局所投与 / クロモグリフ酸、ケトチフェン、外用薬一般 第1世代抗ヒスタミン薬* / クロルフェニラミン、クレマスチン 第2世代抗ヒスタミン薬* / ロラタジン、セチジリン、デスロタラジン、 レボセチリジン
降 圧 剤	妊娠中は使用を控えるべき薬剤 アンジオテンシン変換酵素阻害薬 (ACEI)、 アンジオテンシン受容体阻害薬 (ARB)
甲 状 腺 機 能 亢 進 症 の 方	催奇形性があるため使用を避ける薬剤 チアマゾール (MMI) ※特に催奇形期
喘息疾患の方	比較的安全、先天異常発生リスクが大きく上昇しないとされている薬剤 吸入ステロイド薬、長時間作用性β2 刺激薬、長時間作用性抗コリン薬、 抗トルエン薬、抗ヒスタミン薬*抗アレルギー薬項目参照
糖代謝異常の方	比較的安全とされている管理法 食事療法 + インスリン療法
ステロイド	胎盤通過性がほとんどないため容認 プレドニゾロン

精神疾患や基礎疾患などがあり安全性が確認できない薬をやめられない症例がある場合は

平成17年10月より国立成育医療センター内に「妊娠と薬情報センター」が設置され相談可能です。広島県では広島大学病院が窓口になっています。世界的に症例を集積しているトロント大学のデータベースに基づき情報を提供してくれますので、症例があればご相談ください。



ふれあい

脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

カンファレンスの内容をお伝えします!

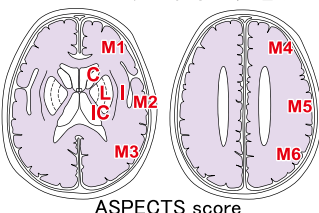
脳梗塞急性期の ASPECTS score と血栓溶解療法

【脳神経内科 / 向井 智哉】

主幹動脈閉塞による脳梗塞に対する急性期血栓溶解療法 (t-PA 静注) は、救命および後遺症軽減に有効な治療法ですが、再開通によって頭蓋内出血を来すことも経験します。このことを回避するために、t-PA 静注の出血リスクスコアとして ASPECTS (Alberts Stroke Program Early CT) score が用いられています。

ASPECTS score とは脳梗塞の超急性期に単純 CT で認められる微細な変化 (早期虚血サイン: ①皮髄境界消失②レンズ核の不明瞭化③脳溝

の消失) を定量化したスコア法です。中大脳動脈領域の大脳皮質を皮質6カ所 (M1-6) に島皮質 (I) と尾状核 (C)・レンズ核 (L)・内包 (IC) を加えた計10カ所10点から早期虚血サインがある範囲数を減点し、スコアを求めます。早期虚血サインが全くない場合は10点で、7点以下では機能予後が悪く、頭蓋内出血が多いとされています。



外科医の独り言...no.95

— 反社会的勢力 —

芸人が、悪質な詐欺で後に逮捕された反社会的勢力のパーティーに参加して、高額な報酬を受け取っていた、いわゆる「闇営業」が問題になりました。この反社会的勢力という言葉は、以前からあったのですが、あらためてどういふ人達を指すのか確認のためウィキペディアで調べてみました。暴力、威力と詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求する集団又は個人と書かれてありました。昔は、個人としてはヤ○ザ、団体としては暴○団、そのいでたちと雰囲気は一目瞭然、一般の人と区別するのは容易だったのですが、最近は全くわかりません。やんちゃな人はいますが、その人が反社会的勢力かどうかは、おそらく本人に聞かないとわからないと思いますが、そんな怖いことを聞けるはずありません。

以前にもこのコラムに書いたと思うのですが、私は大学病院での1年の研修を終えた後、2年目から4年目までの3年間は、八丁堀にあったK外科病院に勤務していました。ここで外科医としての本格的なスタートを切ったのですが、良くも悪くも色々な経験をさせてもらいました。見た目も雰囲気も明らかに反社会的勢力の患者さんがめまいで入院となり、主治医を任せられることになりました。検査では異常なく、何をしても良ならないので、数人の付き人に囲まれて、「こら、やぶ医者！」と桐喝?されましたが、めまいで外科の病院に入院するほうがおかしいとは言えず、困ったことを覚えています。当時私は、入院して何かから逃げるための口実、仮病だと思っていました。

彼らには、不始末をしでかした時に小指を落とすという掟があったようです。当然、希望の外科的処置は、切断した小指をつなぐのではなく、残った小指の傷口をきれいに縫い合わせる事です。傷の断端に飛び出した骨は短く切って、縫った皮膚に当たらないようにしないと痛みが辛いそうです。断端をきれいに丸く、そして後

に痛みを悩まされないように縫うのは、若い外科医には結構難しい処置でした。ましてや、夜に1人で付き人数人に囲まれて縫合するのはかなりプレッシャーがかかりました。「先生よ、これ見てみい、こういう風に丸く縫えよ、こっちみたいに不細工に縫ったら後が痛いんよ」と、自分のなくなった両方の小指を見せながら、これから縫おうとする私に指示する付き人もいました。「なるほど、わかりました、そのように縫います。」と言って自信を持って、手も震えず上手く縫えるようになったのは、この病院を辞めるころだったと思います。

この病院での3年間の修行を終え、自信をつけて大学病院に帰った私は、アルバイトで行く市内の救急病院で、初めての珍しい経験をすることになったのです。当直をしていた深夜、看護師さんから「ヤ○ザ風の患者さんが来られました」と電話が入り、てっきり指を落とされたのかと思って外来に行くと、真っ青な顔をしたやんちゃそうな若者が診察室に座っていました。小指は大丈夫そうでしたが、彼の震える口から「今から小指を落としに行くので、痛くないように麻酔を打ってください」とお願いされました。さすがにそれはできないとキッパリ断ったのですが、しつこく頼むので、院長先生に電話で助けを求めると、「打ってあげなさい」の冷たい一言で、しょうがなく切断予定部に局所麻酔を打ちました。ただし、これは医療行為ではないので保険も効かないし、会計でお金はもらっていないと思います。まあ、どうせ事がなって、またすぐに病院に来るだろうと思っていましたが、結局その患者?さん

は、来院されませんでした。ひょっとして、私の麻酔が効かなかったのでしょうか。



副院長(消化器センター長・緩和ケア科主任部長) 板本 敏行

ふれあい看護体験

7月23日(火)に「ふれあい看護体験」を実施しました。「ふれあい看護体験」とは、広島県看護協会からの依頼により、市民を対象に施設見学や看護体験、関係者との交流を行い、看護職の理解を深めるイベントで、当院も毎年協力しております。主に夏休み中の高校生から申込みがあり、病院の紹介や進路説明、新人看護師からのメッセージなどを聞いてもらい、看護体験や救急蘇生講座を受けて頂きました。この体験で、将来医療現場で働く自分の姿がイメージでき、医療への関心・理解を深めて下さったことと思います。



約50名の方に参加して頂きました